

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	(一社) 安中市観光機構	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	群馬県安中市	
所在地	群馬県安中市	
設立時期	平成29年4月1日	
職員数	7人	
代表者(トップ人材: 法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者)	(氏名) 武井宏 (出身組織名) 安中市観光協会 安中市商工会 (株)ボルテックス セイグン	安中市商工会長として、地域内外の様々なパイプ役となっており、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている。 また、地元安中市に本社をもつ物流会社の代表取締役で、群馬県貨物運送事業協同組合連合会長、(一社)群馬県トラック協会副会長、群馬県経済同友会副代表幹事、群馬県中小企業団体中央会理事など務めている。
旅行商品、プロモーションの責任者(専門人材) 各種データの分析・収集	(氏名) 依田沙希「専従」 (出身組織名) (株)ハイパークリエーションアルファ	旅行AGT会社で5年間勤務。国内着地型観光のプロモーションに高い能力を持つ。
財務責任者(専門人材)	(氏名) 山崎勉 (出身組織名) 安中市商工会	安中市商工会にて経営指導員を歴任後、安中市観光協会の事務局長として勤務。高い財務分析能力に加え、経済団体等に幅広い人脈を持つ。
相談員	(氏名) 新井規之 (出身組織名) (株)ボルテックス セイグン	民間シンクタンクで5年間勤務後、民間物流会社で各種政府支援策を担当している。観光地域マーケティングについて高い知見と能力を持つ。さらに、中央省庁、群馬県、安中市等との様々なコラボレーション事業に関与している。

(別添) 様式 1

<p>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</p>	<p>群馬県安中市商工観光課（マーケティング） 安中市都市整備課、地域振興課（社会資本整備） 安中市企画課（地域公共交通） 安中市教育委員会文化財保護課（ガイド養成） 群馬県高崎行政県税事務所（広域連携） 富岡市世界遺産部観光おもてなし課 軽井沢町観光経済課</p>
<p>連携する事業者名及び役割</p>	<p>株式会社ボルテックスアーク（着地型旅行商品）、安中市商工会、安中市松井田商工会、安中市菓子工業組合、安中市飲食店組合、群馬県立安中総合学園高等学校、秋間梅林観光協会、安中市物産振興会、碓氷製糸農業協同組合（ふるさと名物の開発）、群馬県信用組合（金融相談）東日本旅客鉄道株式会社、（社）群馬県タクシー協会碓氷安中地区（アクセス改善）、磯部温泉組合、磯部観光温泉旅館協同組合、磯部製菓協同組合、磯部合同製菓組合（温泉地の回遊促進）安中まちづくりの会、安中市観光ボランティアガイドの会、碓氷線文化財インストラクター（まち中回遊促進）</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>（該当する要件）</p> <p>① 様々な分野の代表者により構成される DMO 理事会の設置 DMO の理事会には、安中市観光協会長、安中市長、安中市商工会長、碓氷峠交流記念財団理事長、JA 碓氷安中代表理事組合長、磯部温泉組合長、安中市飲食店組合長、東日本旅客鉄道株式会社高崎支社長など、地域の関係組織の代表者が参画し、地域一体となった観光地域づくりに向けて事業に取り組む体制とする。</p> <p>② DMO を中心とした観光地域づくりの推進について、DMO の組織内に設ける「商品開発部会」などへ、行政や民間企業、地元ボランティア団体、NPO 法人など、地域の多様な組織からメンバーを選出したワーキンググループを設置し、滞在交流型プログラムの企画立案などを通じて、継続的な観光地域づくりや連携についての合意形成を地域が自主的に課題化する構造とする。</p> <p>③ DMO を中心とした観光地域づくりについての連絡調整を行うため、商品企画で関係する富岡市、軽井沢町をはじめ、行政、民間企業、ボランティアガイド団体、NPO 法人など、市民活動団体も含めた地域の多様な組織からなる協議会を設置し、定期的な情報交換などを行う。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>地方創生交付金を適切に活用し、実施している事業や今後の事業計画を発表し、様々な意見をもらい、反映させる委員会を定期的に行っている。また、安中市内に在住する地域住民参加型の体験型プログラムを作成するワークショップを 28 年・29 年に実施。30 年はワークショップをさらに進化し、体験型プログラム部会をはじめ、商品開発部会、情報発信部</p>

	<p>会を立ち上げ、総勢約 40 名の地域活動団体や市民に参加いただき、観光誘客の具体的な施策を話し合っている。定期的に開催すると同時に、地域住民への啓発を目的とした有識者出演によるシンポジウムも開催している。</p>
法人のこれまでの活動実績	<p>(活動の概要)</p> <p>一般社団法人安中市観光機構が所属する 2 市 1 町観光連携協議会では観光イベント事業や観光情報発信として以下の取組を実施してきた。</p> <ol style="list-style-type: none">① 共同宣伝事業：文化観光資源をそれぞれ出し合い、富岡製糸場や碓氷峠鉄道施設（めがね橋等）、旧三笠ホテルなどを前面に押し出した、広域観光パンフレット、ポスターを作成し、それら観光キャンペーンを通じ、関東・北陸地域等への積極的な誘客宣伝活動を行ってきた。② 観光情報の収集・交換・提供：観光情報の収集・交換に努め、広域的な旅行商品の造成を図るとともに、旅行会社・マスコミ等関係機関へ積極的に広域観光情報の提供を行ってきた。また、昨年は群馬県の支援を受け、2 市 1 町の観光コースを造成し、そのコースを AGT 向けに紹介する DVD の作成を行い、各 AGT に配付し、旅行の造成を依頼し、誘客した。③ 各種イベントの相互参加：2 市 1 町のそれぞれの観光イベントに観光情報提供ブース出店などで相互参加し、連携を強化するとともに、それぞれの地域の魅力や協議会の活動を宣伝してきた。（安中市商工会主催の安中市産業祭 等）④ AGT モニターツアー実施：安中市の地方創生推進交付金を活用し、観光 AGT 16 名を本エリアに招待し、2 市 1 町の歴史文化遺産を中心に、各地域のガイドによるまちあるきコースを設定し、案内した。さらにツアーの夜は、3 首長が集まり、観光 AGT や市民約 150 名を対象に、これからの広域連携と安中市の観光振興を考えるシンポジウムを行い、広域連携についての 3 エリアの共通の観光誘客の方向性について確認した。⑤ 台湾プロモーション実施：2 市 1 町観光連携協議会の予算を活用し、台湾旅行博への視察を行い今後のプロモーション方法を検討した。また、AGT にも訪問し、今後のインバウンド受注に繋げるための具体的なプロモーションを行った。合わせて、JNTO にも訪問し今後の観光連携強化を要望した。 <p>これまでは単なるプロモーション先行の取組が多かったことから、本事業を通じてもう一度原点に立ち戻り、地域資源の深堀から、どのよう</p>

(別添) 様式 1

	<p>なストーリーを、誰をターゲットに組み立て、そのターゲットに訴求するための効果的なプロモーション戦略を根本から組み立て直したいと考えている。</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>(一社) 安中市観光機構が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通事業者、農業者など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。</p> <p>(実施体制図)</p> <p>オール安中の観光地域づくりを推進する組織 (日本版DMO)</p>

2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

安中市は、2006年3月18日、旧安中市と旧松井田町が合併し誕生した市である。人口は63,238人(平成17年国勢調査速報値)、産業別就業人口比は8:34:58(同速報値)である。群馬県西部に位置し、東は高崎、西は軽井沢、南は富岡に接している。



【区域設定の考え方】

群馬県安中市では、平成26年6月の「富岡製糸場と絹産業遺産群」世

界遺産登録や北陸新幹線開通をチャンスとして、県境を跨いだ観光連携協議会を群馬県富岡市及び長野県軽井沢町とともに、平成 26 年 4 月に発足させた。この流れを踏まえ、当会の会長は、安中市の観光事業者として、地元産業の活性化を観光振興により実現するという考えの下、本事業に取り組む。連携する各自治体の状況は以下の通りである。

■安中市

安中市は群馬県西部に位置し、東は高崎、西は軽井沢と接する。人口は 58,561 人（平成 30 年 4 月 30 日現在）の市である。中山道の宿場や関所が置かれる交通の要衝であり、現在でも長野新幹線の安中榛名駅に加えて、上信越自動車道の松井田妙義 IC 及び碓井軽井沢 IC があるなど全国的に見ても立地条件に恵まれた地域である。この立地の良さを活かし、市内には信越化学工業や東邦亜鉛といった企業があり、産業別就業者数をみても第 1 次が 2,417 人（8%）、第 2 次が 10,531 人（34%）、第 3 次 17,658 人（58%）と 2 次以降の比率が高い。

【年間 140 万人が楽しむ温泉地域】

安中市を代表する観光資源といえば、磯部温泉である。妙義山を借景とする清流“碓氷川”沿いの風光明媚な場所に拓けた磯部温泉は、温泉記号の発祥地としても知られており、市内には数カ所の日帰り温泉施設があることから、年間 140 万人もの観光客で賑わっている。

【明治の歴史遺産群】

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」に代表されるレンガづくりの歴史遺産が安中市内にも数多く存在する。中でも安中市といえば明治期の芸術と技術が融合した美しいレンガのアーチ橋である「めがね橋」、「アプトの道」がある。

■軽井沢町

軽井沢町は長野県東部に位置し、東は群馬県安中市、西は御代田町と接する。人口は 18,994 人（平成 27 年現在）の町である。観光客が年間 800 万人訪れている国内有数の国際リゾート都市である。2016 年に先進国首脳会議を誘致するための活動を町を挙げて取り組んでおり、地域の国際化を進めている地域である。上信越道自動車道の碓氷軽井沢 IC があり、鉄道は、しなの鉄道と、北陸新幹線が通っている。産業別就業者数は第 1 次が 299 人（3%）、第 2 次が 1,310 人（14%）、第 3 次 6,963 人（73%）と 3 次の比率が高い。

また、隣接する群馬県安中市と世界遺産登録「富岡製糸場」をもつ富岡市と観光連携を進めている。その中で、文化歴史資源である三笠ホテルなどを中心に、町内の歴史遺産に着眼した広域観光誘客を図っている。

■富岡市

富岡市は群馬県西部に位置し、北東は高崎市、西は下仁田町と接する。人口は 49,250 人（平成 30 年 5 月 1 日現在）の市である。平成 18 年に富岡市と妙義町が合併した。上信越道自動車道の富岡 IC があり、鉄道は、私鉄の上信電鉄の 7 駅が通っており、群馬県西部地域の中心都市と

(別添) 様式 1

して富岡製糸場の世界遺産登録を契機に市街地活性化を進めている。また、隣接する甘楽町と広域連携を進めている。代表的な企業はIHIエアロスペースや、日本光電などの事業所がある。産業別就業者数は第1次が2,556人(9%)、第2次が11,060人(40%)、第3次13,914人(50%)と2次以降の比率が高い。平成26年6月21日に世界遺産登録された富岡製糸場は800,230人となっており(平成28年度)、平成26年度の1,337,720人のピークから比べると減少傾向にある。

【観光客の実態等】

群馬県の西側及び長野県の東端に位置する富岡市・安中市・軽井沢町は、**明治期に建築された重要文化財の近代化遺産**で結ばれており、またそれぞれ2市1町には、地域の風土・歴史、文化及び産業に触れることのできる地域として高く評価され、数多くの名所・旧跡・レジャー施設等が整備されており、首都圏を中心に、**四季を通じて多くの観光客が訪れている**。

上記に述べたように、富岡製糸場の世界遺産登録により、前年30万人しか訪れなかった富岡製糸場の観光客が、登録後は年間100万人を突破する伸びを見せており、その影響で、**磯部温泉**も、富岡製糸場に最寄りの温泉地として、前年比130%の宿泊者数にのびている。軽井沢町には、昨年は837万人が訪れており、年々増加傾向にある。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

■安中市の歴史を代表する観光資源

アプトの道(遊歩道)	廃線路を遊歩道とした鉄道遺産。 (横川駅～めがね橋の約6km)	旧碓氷郡役所	市指定重要文化財 郡奉公は領内の村方の警察権や裁判権を有した役所。
安中教会	国登録有形文化財 日本人の手で創立された日本初めての教会。新島襄より湯浅治郎をはじめとする30名が洗礼を受け、明治11年に創立。	旧丸山変電所	碓氷線電化の為、国鉄が全国で初めて建設した変電所。
		熊野神社(碓氷峠)	県境にある珍しい神社

(別添) 様式 1

安中原市の杉並木	国の天然記念物。旧街道を 行き来する旅人が強い日差しをしのげるよ うにと植樹されていた。 天保年間には 700 本を 超え、日光杉並木と並び 称されていた	五料の茶屋本陣（お西・ お東）	お西、お東ともに大名や 公家などが休憩したと ころ。県史跡に指定さ れ、復元修理後一般公開 されている。
板鼻本陣跡 和宮（静寛院宮）	皇女和宮が徳川家に奥 入れの旅の疲れを休め た場所。京都方 1 万人、 江戸方 5 千人、京都から の通し人足 4 千人とい う大行列だった。	自性寺焼陶芸村	受講料一人一日 3000 円 +送料+消費税 (要予約)
碓氷社本社事務所 1 棟・附	製糸の品種改良により 生産者の利益を守ろう と地元の有志者が組合 製糸を発足した。事務 所：瓦入母屋造の二階建 て。	新島襄旧宅	安中市指定史跡：新島襄 は安中藩士の長男とし て生まれ、キリスト教の 伝道に努めた。アメリカ から帰国した襄が、両親 と再会した家が残され ている。没後は、彼の活 動を伝える資料館とな っている。
棟札 1 枚・来賓便所 1 棟・建築縮図 1 枚	県指定重要文化財。ぐん ま絹遺産。	日本基督教団	
碓氷関所跡	群馬県指定史跡。1616 年江戸幕府によって設 置され、重要な交通路で ある中山道を取り締ま った。(入り鉄砲と出女) 交通、関所に関する資料 展示されている。	安中教会宣教師館	国登録有形文化財同時 期に多数作られた宣教 師の中では県内で現存 する唯一のものである。
碓氷峠製糸農業協同組 合	碓氷製糸は全国で 2 社 しかない製糸会社。	(旧ベーケン邸)	
碓氷峠鉄道施設	国指定重要文化財：めが ね橋一明治 25 年完成。	便覧舎址・有田屋	市指定史跡：明治 5 年、 湯浅次郎は民間人によ

(別添) 様式 1

碓氷第三橋梁 (めがね橋)	芸術と技術が融合した美しいレンガのアーチ橋。この形採用は日本で最初。		る初めての図書館開設。学問を志し新しい時代を開拓した当時の若者に新しい知識を提供した場所。
旧安中藩郡奉行役宅	郡奉行であった猪狩磯右衛門が実際に居住していた建物。郡奉行は領内の村方の警察権や裁判権を有した役職で、配下に代官を置き領内の農民の統治を担っていた。	磯部温泉	温泉記号発祥の地として知られ、200年以上の歴史がある。明治期には財界人の別荘が建つなど東京の避暑地として栄えた。源泉の泉質は非常に濃くて素晴らしい
		碓氷峠鉄道文化むら	日本鉄道史に欠かすことのできない碓氷線の歴史と車両を展示している貴重な施設
		峠の湯	平成27年12月にリニューアルオープン。
		霧積温泉	大日本国憲法の草案が練られた山奥の秘湯
<p>■安中市を代表するイベント・お祭り</p>		<p>■安中市を代表する自然や花の名所</p>	
秋間梅林まつり	オープニングキャンペーン、開花祭、芋煮会、餅つき大会、友好都市の物産即売会、モデル撮影会、野点、ウォーキングなどのイベントが開催される。	アイリスの丘	苗の販売、切花、農産物、草花等の販売あり
安政遠足 (侍マラソン)	組織的に記録を競うマラソンはこれがはじめてだった為、安政遠足が日本におけるマラソンの発祥と言われている。	秋間梅林	50haの丘陵に35000本の紅白梅が咲く。秋間梅林祭開催。

(別添) 様式 1

	前日に前夜祭あり。		
磯部温泉まつり	磯部温泉まつりは半世紀以上も続く伝統的なお祭りです。	碓氷湖	碓氷川と中尾川合流点をせき止めて作られた人造湖。一周 1.2km の遊歩道整備。イワナ、マス釣りも楽しめる。
碓氷峠ほたるの里まつり	屋台が 10 店くらい、19 時～飛び始め、見頃は 6/下から 7/上 (20 時～21 時頃)	ろうばいの郷	全国有数の本数を誇り、ニュースなどでも毎年取り上げられる新名所。
咲前神社の太々神楽	鷺宮の太々神楽は、咲前神社の春祭りに奉納されてきた神楽で、第 2 次大戦で一時中断し、昭和 30 年代に再び中断していたが、咲前神社の氏子を中心に保存会を結成して復活の努力が続けられ、日まで続いている。また、54 年 3 月 26 日には、市の重要無形文化財に指定された。	妙義山	国指定名勝。九州の耶馬溪、四国の寒霞溪と並び日本三大奇勝のひとつ。奇岩怪石が造り出す山容は自然の芸術。四季の景観が見事。日本近代登山発祥の地
安中市産業祭	安中市、安中市商工会、JA 碓氷安中の共同より農業祭とにぎわい朝市の 2 会場で開催されるお祭り。多くのブースで農産物など様々な物が販売される		
ろうばいまつり	ろうばいの花が見頃の 1 月中旬にろうばいの郷で開催される。ろうばいの枝や甘酒の無料配布やアトラクションが		

(別添) 様式 1

	行われる。		
<p>■安中市を代表する物 産品</p>		<p>■安中市を代表するス トーリーや偉人</p>	
鮎料理	塩焼き、刺身、天ぷらなど豊富な鮎料理が食べられます。	日本最初の民設図書館	日本で最初にできた民説図書館は、キリスト教の教えを受けた湯浅次郎が市民の啓発のために私費で開設した
磯部せんべい	江戸時代から続くお菓子。鉱泉を使用した地元の名物	日本最初のマラソン大会	板倉勝明が始めたもので、100年以上の伝統を誇り現代に続いている
梅干し	昔ながらの酸っぱい梅干しから甘い甘露梅まで。横川駅に急行列車が停車したことから、富国強兵の時代、軍需に応じて秋間地区で栽培が盛んになる。白加賀という品種で梅酒に適している。	日本三大関所	碓氷関所は箱根と並ぶ二大関所として有名
絹製品	国内で紡いだ絹の製品は希少。この地域のお土産筆頭になってよい	文教のまち 安中	板倉勝明からはじまる文化人の歴史から、安中市は「文教のまち」と言われ、県内では「安中教員と館林巡査」と言われるほど優秀な教員を排出する地として認知されていた歴史があった
醤油	歴史を感じさせる店構えと商品デザイン。	松井田宿	信州の各地の年貢米の中継地として栄えた
		もみじ (童謡唱歌)	もみじの名所としてアプトの道や碓氷湖に植栽をしており、写真などはそのもみじの紅葉のものが多い

(別添) 様式 1

カもち	中山道碓氷峠越えした人	板倉 勝明	教育のまち安中の基を築いた歴代藩主随一の名君。学者大名で書物を出版し、新島襄を見出し、安政遠足を実施するなど、まさに安中発展の基盤を築いた
	する人が力をつけた「カ餅」	大手 拓次	明治20年、磯部温泉鳳来館の二男として生まれる。白秋門下の三羽ガラスと言われ、優れた作品を残した。
峠の釜めし	中山道を人力で越えた昔を偲びながら、変わらぬ手作りの味	新島 襄	安中にゆかりがある偉人としては最も全国的に知られている。同志社設立の祖。
	昭和33年の発売当初から今日に至るまで、永く親しまれ続けてきた峠の釜めし、益子焼の器に山の幸、里の幸に炊き込みご飯が詰め込まれたお弁当です。	柏木 義円	キリスト教思想家。山川均に影響を与えた。新島襄に影響を受け同志社卒業。安中教会牧師も経験。足尾鋳毒事件、廃娼運動、未解放部落問題、朝鮮人虐殺問題など時代批判を幅広く行った。日露戦争以降は、一貫して非戦を主張したことで有名。
		萩原 鏡太郎	組合製糸「碓氷座繰精糸社(のちの碓氷社)」を創立、養蚕・製糸業のために一生を捧げた。碓氷社は官営富岡製糸場があるにも関わらず機械製糸を選ばず座繰製糸を選択したのは農民の利益を第一に考える鏡太郎の信念によるものだった。

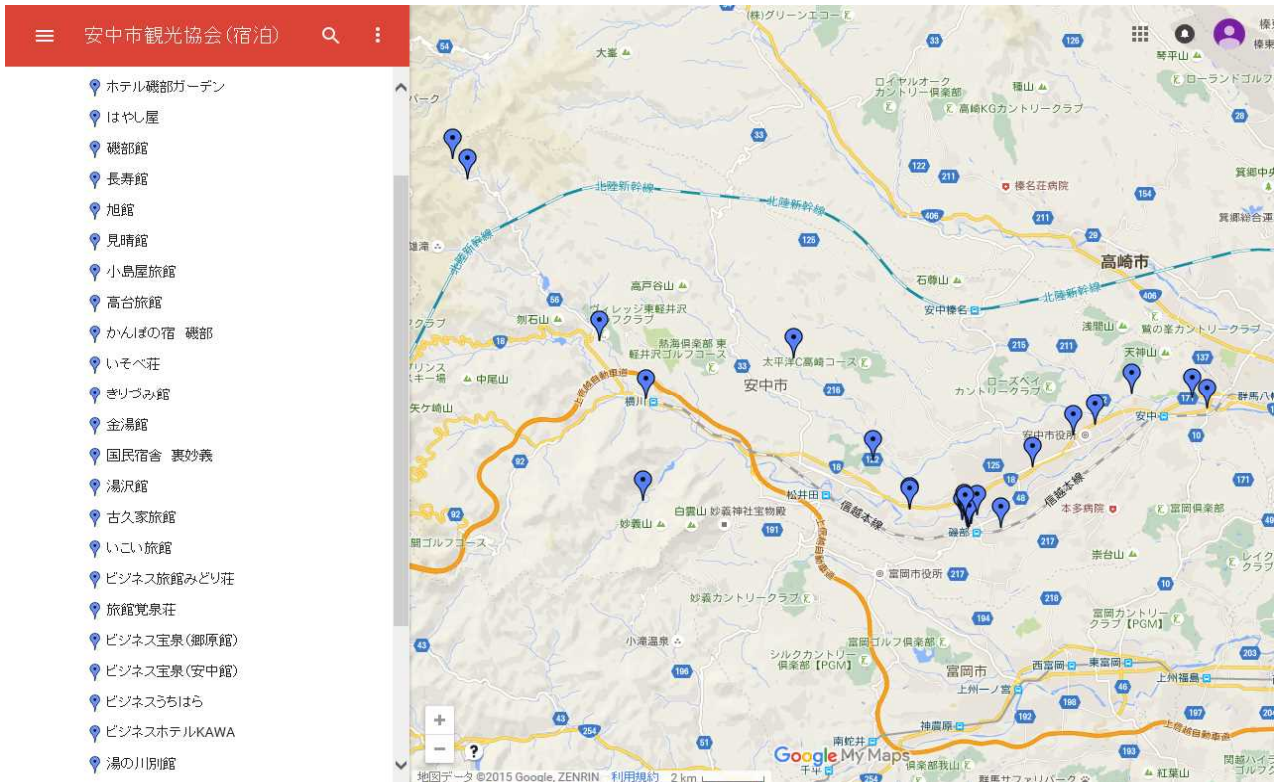
湯浅 治郎

有田屋湯浅家に生まれ、新島襄と出会いキリスト教徒に。便覧舎の設立や、県政での廃娼運動の実施などが有名。国政でも活躍。同志社の復興にも注力した。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

① 域内分布図

※多くの宿泊施設は磯部温泉に集中。その他、ビジネス旅館は国道18号線沿いに、市の東西に涉って広く分布している。



② 宿泊施設名称及び収容人数

磯部温泉		湯沢温泉	
施設名	収容人数	施設名	収容人数
ホテル磯部ガーデン	750 人	湯沢館	50 人
磯部館	120 人	合計収容人数	50 人
桜や作右衛門	150 人	霧積温泉	
見晴館	40 人	施設名	収容人数

(別添) 様式 1

旭館	50	人	霧積温泉金湯館	120	人
小島屋旅館	20	人	合計収容人数	120	人
かんぼの宿磯部	205	人			
高台旅館	84	人			
いそべ荘	25	人			
合計収容人数	1444	人	温泉合計収容人数	1614	人

一般旅館・ビジネス			一般旅館・ビジネス		
施設名	収容人数		施設名	収容人数	
古久家旅館	30	人	くつろぎの郷コテージ	42	
いこい旅館	35	人	民宿 中仙道	14	人
ビジネス旅館	50	人	湯の川別館	24	人
旅館 覚泉荘	38	人	東京屋旅館	18	人
ビジネスうちはら	18	人	旅館妙角	15	人
ビジネスホテル宝泉原市館	9	人	まついだ森の家	20	人
ビジネスホテル宝泉郷原館	14	人	国民宿舎裏妙義	74	人
ビジネスホテル宝泉安中館	18	人	ホテルルートイン安中	153	人
ビジネスホテルKAWA	40	人	一般旅館・ビジネス合計収容人数	612	人

総合計収容人数	2226	人
---------	------	---

【利便性：区域までの交通、域内交通】

安中市は、**中山道の宿場や関所が置かれる交通の要衝**であり、現在でも長野新幹線の安中榛名駅に加えて、上信越自動車道の松井田妙義IC及び碓氷軽井沢ICがあるなど全国的に見ても立地条件に恵まれた地域である。

さらに、平成27年3月14日には北陸新幹線の金沢延伸に伴い、関東圏や北陸圏からの観光客の誘致に、中長期的にも、大きく期待ができる状況になってきている。

しかし、富岡市と安中市を結ぶ二次交通は、両市の取り組みで信越線横川駅（安中市）～富岡製糸場までのバス運行が期間運行として行われたが、1運行の平均乗車人数が10人を充たない状況であり、政策効果が薄いこともあり、現在は運行してはいない。安中市と軽井沢町間は、信越線横川駅～軽井沢駅までのバスが運行している。安中市内のバス路線は、五路線あり、安中市内の役所や病院を結ぶ路線となっており、高校生の通学や高齢者の買い物などに活用されているが、観光客に活用される流れにはなっていない状況である。

しかし、高速交通網の整備に伴う行動の広域化や旅行ニーズの多様化など、観光を取り巻く環境は時々刻々と変化しており、広域観光PRの促進など時代に対応した観光振興策が求められている。特に、JR西日本が行った調査によると、関東圏に行きたい観光地は、東京に次いで軽井沢町であることがわかっており、富岡製糸場が世界遺産になったからと言っても、西日本の観光

客からすれば、他の現状の世界遺産よりも、各遺産が点でバラバラになっていて面になっていないこと等で魅力的な滞在時間になっていないことがわかる。

また、現在行われている自治体毎のPRでは、観光客の視点に立った滞在型プランが形成されていない。その為、トータルで紹介する観光ガイドの育成も進んでおらず、観光スポット毎のボランティアガイドが、次の観光地に誘導できない状況である。

着地型観光実現には、観光客の魅力を引きつける資源の演出と、それを伝えるための滞在時間を意識した観光ルートを作成し、観光スポットで地元観光産業である温泉旅館業、物産業、飲食業が個別かつ丁寧に、特産品メニューなどをPRし、消費を開発する事が必要である。魅力的な観光とは、観光客にとって非日常の空間演出が必要であり、そのためにはお客の観光資源の理解にあわせたトータルなコーディネートが不可欠である。

北陸新幹線や、西日本からの効果的な旅行商品として考えるならば、日本を代表するリゾート地域である軽井沢に行ったついでに、温泉マーク発祥の地の磯部温泉に泊まり、世界遺産の富岡製糸場に行くという流れが、現実的なツアーであろうと考えられる。

このように考え、2市1町協働の基に関係機関及び相互の連携を一層緊密にし、各地域に点在するさまざまな観光資源を有効に結び、ルート化することで回遊性を高め、「広域観光」の利点を推進することとしていくことが重要であると考えます。

【外国人観光客への対応】

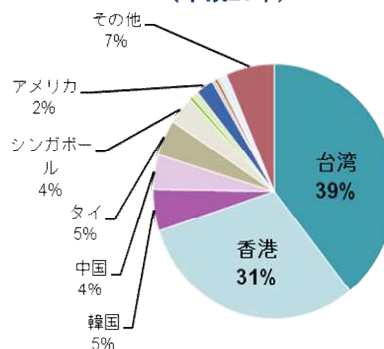
一方、インバウンドにおいては、軽井沢町の外国人延べ宿泊者数は、25千人泊（平成25年）であり、台湾・香港で7割を占める。

台湾は主にファミリー、香港は主に女性グループ・カップルの旅行者が多い傾向にある。

なお、移動については、インバウンドの大半はJRのレールパスを利用していることが多いものの、香港からの旅行者は、東京もしくは軽井沢からレンタカーで移動するケースが多い。

一方、安中市や富岡市のインバウンドは、他都市と比べても極端に少なく、インバウンド獲得への取組が課題となっている。

【軽井沢町】外国人延べ宿泊者数
(平成25年)



3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	オンラインで予約可能な体験型プログラムの閲覧状況を調査すると、関心度や今後の施策を効果的に把握するため	Googleアナリティクスを活用して分析
・観光客導線調査 ・満足度調査	観光客が実際に市内観光資源をどのように回遊しているかを測るため	アンケート調査を自主事業として実施。

(別添) 様式 1

<p>・再来訪意向調査 ※(上記3項目については、観光庁の書記に基づき平成27年12月に簡易的な調査を実施した。詳しくは本計画書21ページに記載)</p>	<p>め。また、観光客の満足度、再来訪の意向を調査し、リピーター獲得の施策へ反映させるため。</p>	<p>調査地点 ① ホテル磯部ガーデン ② 磯部館 ③ 桜や作右衛門 ④ 荻野屋ドライブイン ⑤ 鉄道文化むら ⑥ 恵みの湯 ⑦ 秋間梅林</p>
<p>・着地型観光プログラム問い合わせ件数</p>	<p>地元で商品化された観光商品が売れるよう改善していくため。</p>	<p>調査主体 ① (一社)安中市観光機構 ② 安中市商工観光課</p>
<p>・観光客数調査 ・入込人員 ・宿泊客数 (インバウンド・国内客別に)</p>	<p>2市1町での観光客数の統計をとり、観光政策による効果を図るため。</p>	<p>調査主体 ① 磯部観光温泉旅館協同組合 ② (財)碓氷峠交流記念財団 ③ 富岡製糸場 ④ 富岡市観光協会 ⑤ (一社)軽井沢町観光協会 上記機関が入り込み客数を調査</p>
<p>・住民意識調査(5年に1回実施)</p>	<p>観光地域づくりに対する地域住民の意識を広く調査し、郷土愛の醸成度合い、観光インフラ整備の容易性などについての判断材料とするため。</p>	<p>調査主体 ① (一社)安中市観光機構 ② 安中市商工観光課 観光地域づくりへの住民の意識について、市内の人口分布に応じた調査地点を設定し、住民100人に対してアンケート調査を実施する。</p>

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京から100km圏位置しており、東京から誘客し易い立地条件である。 めがね橋や、童謡もみじの原風景のアプトの道が碓氷峠にはある 碓氷峠は鉄道の聖地である 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンド受入体制が未整備 全国に有名な物産品が少ない 観光導線上に物産品が並んでいない 隣接する観光地域(富岡製糸場、軽井沢町)への二次交通がない

(別添) 様式 1

	<ul style="list-style-type: none"> ・ SL の運行が年間を通じてある ・ 日本近代登山発祥地である妙義山がある ・ 日本 3 大関所・碓氷峠の関所がある ・ 温泉マークの発祥の地である ・ 全国で 2 箇所しかない、現在も絹を生産している碓氷製糸農業協同組合がある ・ 日本マラソン発祥の地である ・ 中山道の宿場町が 4 つ形成されて発展してきた市の経緯があり、まちあるき観光客が年間を通して多い ・ IC が 2 つ、新幹線駅が 1 つある ・ 地元の安中総合学園高等学校が、食文化のプロジェクトに参画するなど実業と連携できる教育機関である ・ 日本人が最初に創立した教会である安中教会がある ・ 一人あたりの所得金額が県内最大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光ガイドの品質管理ができていない ・ 市民が市内の観光資源について知らず、郷土愛が醸成されていない ・ 安中榛名駅前の新興住宅へ、東京からの移住者が一時期は多かったが、新幹線本数の少なさや、将来的な生活の不便さから、近年は低調になっている。 ・ まちあるきの観光客に対する消費促進策が不足し、取り込めていない
<p>外部環境</p>	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 群馬県初の女性市長が現在の安中市長であり、かかあ天下が日本文化遺産に選定されこと ・ 市役所と観光協会、商工会が一体となってプロジェクトを推し進めている ・ 隣接する 130 万人の来場者のある世界遺産のある富岡市、830 万人の観光客が訪れる軽井沢町があり、それらと観光連携している 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な人口減 ・ 富岡製糸場に来場した観光客が、県内で競合する温泉地域に引き寄せられ、観光客が伸び悩み、磯部温泉への引き込みが弱い ・ 近隣の大きな商業都市高崎のベッドタウン化が進み、昼間人口が減っており、地域及び家庭の問題解決能力が下がっている ・ 天然記念物の安中杉並木の保存が課題である

(2) ターゲット

<p>○第 1 ターゲット層 首都圏近郊に居住する 20 代から 30 代の女性観光客</p>
<p>○選定の理由、○取組方針</p> <p>DMO として取り組む以前は、宿泊を伴う観光客が 50 代から 70 代のシニア層であったため第 1 ターゲット層としてきたが、DMO としての取り組み後は、アクティブに活動する東京在住の 20 代から 30 代の女性観光客を第 1 ターゲット層として取り込み、地域消費を上げる取り組みを行う。理由として、昨年に造成した 100 プランの体験型プログラム販売をネット中心に行ったことで 20 代～30 代の女性が前年対比+20%となった (平成 28 年度の予約シェア率 3%から平成 29 年度 23%へアップ: 安中市観光機構調べ)。</p>

これは、東京在住の女性に、安中市を中心とした2市1町のオリジナルストーリーを、彼女らが経験可能な魅力ある観光コースに、体験型プログラムを組み合わせ、彼女らの理解に併せた観光ルートの順番とストーリーを整えたことで需要が広がった。さらにモニターツアーを催行し、より商品の磨きをかけ、モニターツアーの様子を追体験可能な魅力あるストーリーに仕立て上げる。その上で、各 AGT や DMO のサイトを通じた予約受入体制を地域で進めていき、旅行商品化を進めていく。よって、現在の客層の年齢を下げることに
より総量の増加と波及効果の拡大を狙う。

具体的には、

- ① 様々な旅行テーマの中から、自己投資や希少体験といった若者が付加価値を感じられる旅行内容に磨き上げを行う
- ② 3名以上のグループ旅行の需要を喚起するため、グループ用の体験型プログラムプランを用意する
- ③ 現在の体験型プログラム予約のうち、インターネット経由での予約が90%を占めており、さらに予約の70%が首都圏近郊に居住する方となっているため、首都圏から約90分で行けるといいうアクセスの良さをよりPRしてインターネット経由でのさらなる客数UPを狙う
- ④ 旅行とは違う様々な業種で若年層に人気のあるホームページから旅行商品を誘引すること等により、新規顧客を開拓する間口を広げる
- ⑤ 地域の人とふれあう経験を旅の要素の一つとして盛り込むこと。大学ゼミやNPO法人等と連携する若年層の旅行(移動)ニーズに直接響くアプローチをすること。
- ⑥ 地域内消費をあげるため体験型プログラムを、春夏秋冬朝昼晩で検討し、秋間梅林や地元有田屋の醤油を活かしたスイーツ開発などを地域物産の開発と、観光線上での設置及び消費促進を地域一帯で図る

○第2ターゲット層

50代から70代のシニア層(JR大人の休日倶楽部対象者)

○選定の理由、○取組方針

現在の2市1町の文化歴史(富岡製糸場、めがね橋、三笠ホテル等)や安中市にある中山道宿場町に関する観光資源は50代以上のシニア層が多く来訪している。交通手段として電車やバスでの利用が多いため、送客能力の高い東日本旅客鉄道株式会社や、クラブツーリズム、阪急交通社などの既存商品を定常的に造成しているAGTと連携しつつ取り組みたい。

具体的には、

- ① 安中市内にいる合計47名のボランティアガイドに協力してもらい、安中市の歴史(中山道やめがね橋などの鉄道を中心とした遺産等)に関心が高いシニア層を誘客する。
- ② 2市1町全体の誘客強化により、見るだけでない地域ストーリーとしての価値を高めていく
- ③ 約50ヘクタールの広大な丘陵に約35,000本の紅白梅が咲き誇る秋間梅林(群馬3大

(別添) 様式 1

<p>梅林) や、市内に 2 ヲ所あるろうばい、5,000 本が咲き乱れる山吹の郷など自然を活かした観光スポットが多いため、花に興味がある方が多いシニア層に対し、AGT と連携したウォーキングイベントなどのイベントを実施する</p>
<p>○第 3 ターゲット層 軽井沢町や富岡市、東京に来ている香港・台湾を中心とした東南アジアの外国人観光客</p>
<p>○選定の理由、○取組方針</p> <p>インバウンドにおいては、軽井沢町の外国人延べ宿泊者数は、25 千人泊 (平成 25 年) であり、台湾・香港・中国が 7 割を占め、富岡市も同様、台湾・香港・中国を中心に富岡製糸場に延べ来訪者が 4 千人となっている。</p> <p>2 市 1 町で取り組むインバウンド誘客として、既存で来訪している台湾人に対して、さらに地域消費をしてもらうのと同時に、台湾人のインフルエンサー誘致運動も行なっており、台湾にターゲットを絞って誘客を行う。</p> <p>台湾は主にファミリー、香港は主に女性グループ・カップルの旅行者が多い傾向にある。なお、移動については、インバウンドの大半は JR のレールパスを利用していることが多いものの、香港からの旅行者は、東京もしくは軽井沢からレンタカーで移動するケースが多い。また市場としても今後拡大傾向にある。そこで、東京からのゴールデンルートからの引き込みを行うために、まず東京の若い女性に人気のある富岡製糸場～安中・磯部温泉～軽井沢までのコースを元に、外国人観光客へのコースを作成し誘客を行う。</p> <p>具体的には、軽井沢や東京に訪れている外国人観光客の、満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>

(3) コンセプト

<p>①コンセプト</p>	<p>峠の文教都市あんなか</p>
<p>②コンセプトの考え方</p>	<p>○「峠」 碓氷峠という地理的条件があったために、街道が通り、関所が建ち、宿場まちが形成され、鉄道の歴史が刻まれ、そこに住まう私たちの生活が維持されてきたという歴史的背景 (ストーリー) から、峠という単語が入りました。</p> <p>○「文教」 安中市民なら誰もが知っている、「新島学園」「安政遠足」などは、元を辿ると学者大名としてその名を当世に知らしめた「板倉勝明」の功績であるとの結論に私たちは達しました。</p> <p>また、板倉勝明が見出した新島襄がキリスト教精神と日本の近代化を導く欧米の思想を安中に布教した</p>

	<p>ことにより、襄の意思を次いだ湯浅治郎らによる安中教会、便覧舎の設立がありました。また、碓氷社の萩原音吉ら、製糸業の隆盛を導いた人物らも、そうした影響を受けていたことでしょう。それが、かつて「安中教員と館林巡査」と言われた「文教の街」のイメージを安中に与えた。私たちは、そうした安中市の歴史を思い起こし、この安中市が「文教の街」としていま再び輝くことを理想に掲げ、「文教」の言葉を入れました。</p> <p>○「都市」</p> <p>安中市の人口は減少の一途をたどっています。こうした人口減少に歯止めをかけ、「都市」という規模を今後も維持し、さらには人口増加にまでもっていくような、誰もが暮らしたくなる、そんな素敵な安中市を目指したいという理想から「都市」という言葉を入れました。</p>
--	--

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<p>安中版DMOを中心として、地域の関連事業者（市内商工会、磯部温泉組合、安中市飲食店組合、市内ガイド団体、市内農業関係者、市内教育機関、(財)碓氷峠交流記念財団等）を集めてコミュニケーションの場を月に1回程度設けるとともに、関連事業者に対しての観光客受入のためのコンサルティング等を実施。さらに、上記コミュニケーションの場で、安中市内及び2市1町（軽井沢町、富岡市）での滞在型体験プログラムの造成を、春夏秋冬、朝昼晩で行い、平成29年度には100を超えるプログラムを開発した。</p> <p>特に地元の梅や醤油などの資源に着眼し、地元飲食店や物産店に安中でしか手に入らない名物作り地産地消を展開し、リピーター確保のために、梅農家や醤油醸造元、地元のNPOにも意見や参画を求めつつ、体験型プログラムの造成に繋げていく。</p> <p>さらに、軽井沢町や富岡市と共に、大手AGTの意見を取り入れつつ、合同の商品企画WSを開催し、観光客に一貫したストーリーで提供できる本地域ならではのプログラムも開発する。</p>

<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<p>群馬県などと連携し、域内、菓子店及び飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係るおもてなしのための、品質向上研修の実施や、認証制度を検討し、観光客満足度の調査によって管理及び改善を図っていく。さらに、地域の中で魅力ある人材の育成も併せて行う。</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>①地域に根ざした7店舗のスイーツ店に地域の特色と素材を活かして物産商品開発を行ったお菓子（峠の贈り物）に対し、アンケートを実施し、浮かび上がった課題点を店舗へフィードバック、改善を行うことで顧客満足度を上げる取り組みをしている。</p> <p>②2名の地域おこし協力隊が地域で実施するイベントの情報発信をするのと同時に、安中市観光機構が開催しているイベントへ参加し、参加者とのコミュニケーションを行い、課題点を洗い出ししている。また、今まで情報発信できていなかった地域のグルメ情報を集約して安中市観光機構が出版している体験プログラム冊子「あんとりっぷ」へ常設コーナーを設け、情報を発信している。地域おこし協力隊の2名が地域を代表するインフルエンサー的役割を担うことで、地域の魅力ある人材の育成に寄与している。</p>
<p>一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>安中版DMOによる観光客向けのワンストップ窓口の実施、観光客が利用しやすい予約サイトや、域内の観光イベントや花や紅葉情報についてもSNSでの情報発信を行っている。</p> <p>さらに軽井沢町と富岡市との広域連携により、東京の群馬県事務所「ぐんまちゃん家」にて、大手AGTなどへの効果的なプロモーションや、各地域での観光イベント相互出店をDMOとして地域の情報を束ねつつ行っている。</p> <p>また、AGTキャラバンや、毎年目玉商品を紹介するAGT向けモニターツアーを年間1回開催している。</p> <p>更に、域内宿泊施設や各観光資源の受付窓口で、地元関係者と造成した体験型プログラム冊子（四季毎）の紹介と、口頭による直接説明により域内消費を拡大している。</p>

6. KPI (実績・目標)

(別添) 様式 1

(1) 必須KPI

	単位	28年 (度)	29年 (度)	30年 (度)	31年 (度)	32年 (度)	33年 (度)
●旅行消費額 (インバウンド消費額)	円	4,820	5,113	5,400 (23,100)	5,700 (23,600)	6,000 (24,100)	6,300 (24,600)
●延べ宿泊者数 (インバウンド来訪者)	千人	220	220	230 (5)	240 (10)	250 (30)	260 (60)
●来訪者満足度 (インバウンド来訪者)	7点満点中の平均点	5.62	5.13	5.25 (5.20)	5.30 (5.25)	5.35 (5.35)	5.40 (5.40)
●リピーター率 (インバウンド来訪者)	%	74	58	60 (10)	60 (12)	65 (14)	65 (16)

【検討の経緯】

本地域で観光誘客を効果的に進めるためには、本地域と一緒に観光客が立ち寄る傾向が強い軽井沢町・富岡市と一緒に誘客することが重要であると言える。また、昨年度は体験型プログラムでの消費がなかったが、昨年度より作成を行なっている体験型プログラムの直予約と旅行エージェントとの連携で販売を行なっているプランの効果が出ている。内容としては今後も効果が出ている「磯部温泉」や「横川・松井田」エリア以外にも注力し体験型プログラムをさらに造成していく。よって、地方創生交付金を活用し、5ヶ年の計画として推進する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

磯部温泉を中心に安中市内で営業をしている宿泊施設からそれぞれ宿泊客数と消費金額、インバウンド客消費額をヒアリングして算出。現在、販売している体験型プログラムの予約数向上と安中市観光機構内での物販販売商品数を充実させて消費単価を年々向上させることを視野に設定。

●延べ宿泊者数

旅行消費額同様、宿泊施設からそれぞれ宿泊客数を算出。インバウンド宿泊者数もヒアリングして算出、国内宿泊数は現状維持を想定し目標を設定。安中市観光振興プランで設定している観光客数 対前年度比 5%増を視野に設定。

(別添) 様式 1

●来訪者満足度

安中市と安中市観光機構が共同で主要観光スポットや宿泊施設にて対面アンケートを実施。アンケート結果をもとに、学事調査員が集計を行って算出。体験型プログラムを通して年々増やしていくボランティアガイドの増員でより満足度を向上していくことを視野に設定。

●リピーター率

来訪者満足度同様、安中市への来訪頻度を対面アンケートでヒアリング。アンケート結果をもとに、学事調査員が集計を行って算出。年々参加が増えていく体験プログラムに参加した方に対し、他のプランを推薦することでリピーター人数・リピーター率を向上していくことを視野に設定。

(2) その他の目標

	単 位	28年 (度)	29年 (度)	30年 (度)	31年 (度)	32年 (度)	33年 (度)
●ボランティアガイド 人数 (外国語可能ガイド人 数)	人	32	47 (2)	70 (5)	90 (7)	110 (10)	130 (13)
●DMOが管理する滞在 交流型プログラム数 (インバウンド対応プ ログラム数)	回	49	100	200 (10)	300 (25)	400 (35)	500 (50)
●メディア掲載回数 (海外メディアへの 掲載数)	回	43	47 (4)	50 (5)	55 (8)	60 (15)	65 (18)

【検討の経緯】

本地域での観光誘客の手段として、市内で活動する団体や市民の方の協力が大きく影響している。もともと、27年度までは販売する体験型プログラム商品がない状態だったため、28年度より商品造成を進め、その商品を販売するためのPR促進のため、メディア掲載を推進しているため、その他の目標に設定した。

【設定にあたっての考え方】

●ボランティアガイド人数

市内で活動するボランティアガイドをはじめ、商品造成行う体験型プログラムのための新たなガイドを起用することで来訪満足度やリピーター率向上に寄与する。体験型プログラムを年度毎に100プランずつ増やすため、それに応じて新規のボランティアガイド

(別添) 様式 1

も教育していくことを視野に設定。

●DMO が管理する滞在交流型プログラム数

着地型商品として販売を行う商品ラインナップを増やしすることで旅行消費額を向上させる。市内を中心とした協力団体や協力民間企業が比例で伸びていくことを視野に設定。

●メディア掲載回数

群馬県内では知名度がまだ低いため、安中市が観光地として誘客をするための PR 活動が重要であるため、年間を通じてメディアと連携した宣伝を行うことを視野に設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
28年度	38,018,033 (円)	(内訳の区分例) 【国からの補助】 3,787,000 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市町村からの補助金】 13,591,000 円 【観光資源収入】 0 円 【会費収入】 441,000 円 【収益事業収入】 14,399,033 円 【民間企業等からの寄付等】 5,800,000 円 (出資金)
29年度	60,573,323 (円)	(内訳の区分例) 【国からの補助】 11,185,000 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市町村からの補助金】 26,797,000 円 【観光資源収入】 0 円 【会費収入】 897,000 円 【収益事業収入】 10,069,364 円 【民間企業等からの寄付】 等 1,000,000 円 (出資金) 【その他】 10,624,959 円
30年度	56,800,000 (円)	(内訳の区分例) 【国からの補助】 7,105,000 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【安中市からの補助金】 26,245,000 円 【観光資源収入】 0 円 【会費収入】 1,000,000 円 【収益事業収入】 12,000,000 円 【民間企業等からの寄付】 等 500,000 円 【その他】 9,950,000 円
31年度	255,696,920 (円)	【国からの補助】 6,932,000 円 【都道府県からの補助金】 500,000 円 【安中市からの補助金】 25,000,000 円 【観光資源収入】 172,824,920 円 【会費収入】 440,000 円 【収益事業収入】 50,000,000 円 【民間企業等からの寄付】 等 0 円
32年度	300,696,920 (円)	【国からの補助】 0 円 【群馬県からの補助金】 500,000 円

(別添) 様式 1

	【安中市からの補助金】	9,756,920 円
	【観光資源収入】	190,000,000 円
	【会費収入】	440,000 円
	【収益事業収入】	100,000,000 円
	【民間企業等からの寄付】 等	0 円

(2) 支出

年度	総支出	内訳
28年度	38,018,033 (円)	(内訳の区分例) 【人件費】 7,763,147 円 【一般管理費】 6,008,495 円 ・ 第3種旅行業免許取得 ・ 法人登記予算 ・ 観光協会事務局経費 等 【商品開発費】 1,279,352 円 【講師謝金】 1,100,000 円 【イベント費】 713,020 円 【マーケティング調査費】 843,940 円 【広報費】 135,580 円 【その他】 20,174,499 円
29年度	60,573,323 (円)	(内訳の区分例) 【人件費】 13,530,233 円 【一般管理費】 8,632,026 円 【商品開発費】 12,020,000 円 【講師謝金】 1,030,000 円 【イベント費】 11,200,407 円 【マーケティング調査費】 1,090,322 円 【広報費】 6,200,000 円 【その他】 6,870,335 円
30年度	56,800,000 (円)	(内訳の区分例) 【人件費】 15,100,000 円 【一般管理費】 11,100,000 円 【商品開発費】 6,700,000 円 【講師謝金】 1,030,000 円 【イベント費】 13,300,000 円 【マーケティング調査費】 1,080,000 円 【広報費】 5,400,000 円 【観光資源支出】 0 円

(別添) 様式 1

		【その他】	3,090,000 円
31年度	255,696,920 (円)	(内訳の区分例)	
		【人件費】	7,380,000 円
		【一般管理費】	3,866,920 円
		【商品開発費】	45,000,000 円
		【講師謝金】	1,400,000 円
		【イベント費】	1,650,000 円
		【マーケティング調査費】	1,080,000 円
		【広報費】	5,320,000 円
		【観光資源支出】	190,000,000 円
32年度	300,696,920 (円)	(内訳の区分例)	
		【人件費】	7,380,000 円
		【一般管理費】	3,866,920 円
		【商品開発費】	90,000,000 円
		【講師謝金】	1,400,000 円
		【イベント費】	1,650,000 円
		【マーケティング調査費】	1,080,000 円
		【広報費】	5,320,000 円
		【観光資源支出】	190,000,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

一般社団法人安中市観光機構は、着地型旅行商品を扱う第3種旅行業免許を取得し、DMO候補法人としてを発足した。これまで、スタッフ3名を雇用できるように、物産開発も含む体験型プログラムを100件造成し、その中でも人気のある商品を目玉商品として磨き上げを行ってきた。それを元に、春夏秋冬朝昼晩のという商機を活用した観光客へのPRを、宿泊施設や観光資源で直接口頭説明により消費拡大を行う。2020年には体験型プログラムの域内売上で100,000千円を上げて、3名雇用できる体制を生み出し、運営の自立化を実現する。

さらに、今後は市とともにハード面を含む碓氷峠周辺の観光交流事業を実施することにより群馬県安中市と長野県軽井沢町を結ぶ碓氷峠の県境を跨いだ一体的な観光資源の磨き上げを進める事が可能になる。

これらにより、軽井沢町に来ている外国人観光客のニーズを基にしたインバウンド体制づくりに取り組むことができるだけでなく、DMOが域内で集客能力の高い公物管理を行うことで、安中ブランド「峠の文教都市安中」を先導する拠点として、DMOが期待される役割を担えるようになり、DMOが自律的・継続的な活動を行えるようになる。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

(別添) 様式 1

安中市は、平成 26 年度から地方創生関係交付金を活用し、「安中市観光振興プロジェクト委員会」を立ち上げ、(一社)安中市観光機構を発足させ、観光地域づくりに取り組んでいるところである。そうした中で、安中市観光機構理事長はプロジェクト委員会副委員長に就任され、関係事業者の取りまとめ役を担い、市と連携した事業の推進に貢献していただいている。この度、(一社)安中市観光機構が地域 DMO としての機能を有することは、当市の進める観光地域づくりのビジョンと一致するところである。よって、(一社)安中市観光機構を安中市における地域 DMO として登録したいので、(一社)安中市観光機構とともに申請する。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	依田沙希
担当部署名 (役職)	一般社団法人安中市観光機構 (部長)
所在地	群馬県安中市松井田町横川 441-6
電話番号 (直通)	027-329-6203
FAX 番号	027-329-6205
E-mail	saki.yoda@hcalpha.com

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名 富岡市	安中市
担当者氏名	萩原弘
担当部署名 (役職)	安中市産業政策部観光課 (課長)
所在地	群馬県安中市松井田町新堀 245
電話番号 (直通)	027-393-1126
FAX 番号	027-386-4111
E-mail	city.annaka.lg.jp

都道府県・市町村名 富岡市	富岡市
担当者氏名	長谷川 直純
担当部署名 (役職)	世界遺産部観光おもてなし課 (課長)
所在地	群馬県富岡市富岡 1151 番地 1
電話番号 (直通)	0274-62-5439
FAX 番号	0274-62-5469
E-mail	t-kankou@tomioka-ta.jp

都道府県・市町村名	軽井沢町
-----------	------

(別添) 様式 1

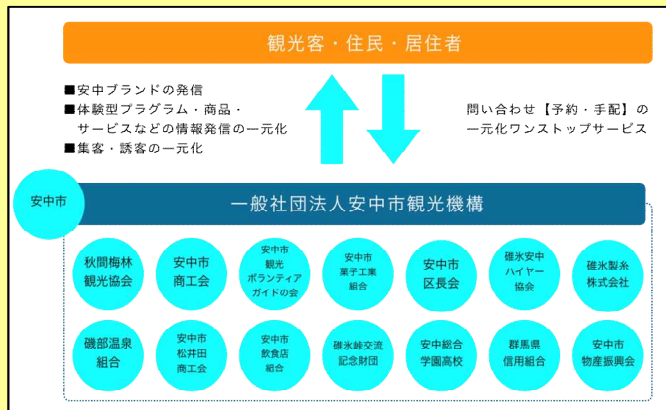
担当者氏名	工藤朝美
担当部署名 (役職)	観光経済課 (課長)
所在地	長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2381 番地 1
電話番号 (直通)	0267-45-8579
FAX 番号	0267-46-3165
E-mail	kankei@town.karuizawa.nagano.jp

都道府県・市町村名	群馬県産業経済部観光局
担当者氏名	観光物産課長
担当部署名 (役職)	佐藤武夫
所在地	群馬県前橋市大手町 1 丁目 1 番 1 号
電話番号 (直通)	027-223-3380
FAX 番号	027-223-1197
E-mail	sato-ta@pref.gunma.jp

【区域】群馬県安中市
【設立時期】平成29年4月1日
【代表者】武井宏
【マーケティング責任者】依田沙希
【職員数】7名
【連携する主な事業者】

株式会社ボルテックスアーク・安中市商工会
安中市松井田商工会・安中市菓子工業組合
安中市飲食店組合・群馬県立安中総合学園高等学校
秋間梅林観光協会・安中市物産振興会・群馬県信用組合
碓氷製糸農業協同組合・東日本旅客鉄道株式会社
(社)群馬県タクシー協会碓氷安中地区・碓氷温泉組合
碓氷観光温泉旅館協同組合・碓氷製菓協同組合・碓氷合同製菓組合
安中まちづくりの会・安中市観光ボランティアガイドの会
碓氷線文化財インストラクター

(表：実施体制)



(表：KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

	単位	28年(度)	29年(度)	30年(度)	31年(度)	32年(度)	33年(度)
●旅行消費額(インバウンド消費額)	円	4,820	5,113	5,400 (23,100)	5,700 (23,600)	6,000 (24,100)	6,300 (24,600)
●延べ宿泊者数(インバウンド来訪者)	千人	220	220	230(5)	240(10)	250(30)	260(60)
●来訪者満足度(インバウンド来訪者)	7点満点中の平均点	5.62	5.13	5.25 (5.20)	5.30 (5.25)	5.35 (5.35)	5.40 (5.40)
●リピーター率(インバウンド来訪者)	%	74	58	60 (10)	60 (12)	65 (14)	65 (16)

A 観光施設

温泉記号発祥の地である碓氷温泉では塩分濃度の高い温泉を活用した“もぐる温泉”「砂塩風呂」や鉱泉を利用した碓氷せんべい店12店舗を巡る「碓氷せんべいサクサクツアー」など体験プログラムが充実している。他にも、碓氷温泉の中心を流れる碓氷川を使った「碓氷築」を夏季営業しており、鮎料理が食べられる他、鮎の塩焼き体験や鮎のつかみ取り体験などこの地でしかできない体験プログラムも販売している。またシーズン営業中に毎年、6つのイベントを実施している。

B 自然

「ぐんま三大梅林」になっている秋間梅林は約50ヘクタールの広大な土地に約35,000本の紅白梅が咲き乱れる。秋間梅林観光協会と連携し、梅もぎ体験や梅ジュース作り体験、梅酵素作り体験をはじめとした体験プログラムを行うと同時に、安中の梅農家で学ぶ梅農家体験「梅の学校」を開催している。この他に、安中の間伐材を利用した薪割り体験やこんにやく農家に協力してもらったこんにやく作り体験、多肉植物園での寄せ植え体験など安中市の自然を活かした体験メニューを揃えている。



C 文化

国の重要文化財に認定されている「めがね橋」は明治25年12月に完成した国内最大級のアーチ橋。廃線敷を利用した遊歩道「アプトの道」をガイドと歩くツアーをガイドと連携して行うと同時に、当時信越本線で運行されていた電車などを展示している鉄道文化むらと連携した体験プログラムや同志社英学校を設立した新島襄ゆかりのスポットを巡るガイドツアーも販売・実施している。他にも、日本最古のマラソン「安政遠足マラソン」は毎年約2,000人が参加する安中市を代表する祭りとして当機構もPRを行なっている。

D イベント・商業施設

当機構がオフィスを構える横川エリアを舞台にトロッコ列車を特別に夜運行する「夜のトロッコ列車」や前準備を当機構が行う「手間なしでBBQ」、横川エリア全体を使ったキーワード探しゲーム「トレジャーハンティング」などを1日で楽しむイベント「横川で朝から晩まで遊ばナイト」を実施している。他にも、醤油の蔵元である有田屋の醤油を使い、市内のスイーツ店7店舗と商品開発を行い、峠の贈り物ギフトとして当機構で受注・販売をしている。